後期重点摘果で温州ミカンの品質向上

【背景・目的・成果】
温州ミカンの国内需要が減少する中、淡路地域では、もぎ取り、オーナー制、直売といった消費者と対面した販売方法が広がっており、消費者ニーズに対応した高品質ミカンの生産が求められています。
そこで、糖度が上昇することが知られている後期重点摘果の淡路地域での適応性について調査したところ、従来の摘果方法に比べミカンの糖度が高くなり、高品質ミカンの生産が可能であることが分かりました。

表1　摘果方法ごとの摘果時期と程度（早生温州）

摘果方法	粗摘果		仕上げ摘果	
	摘果時期	摘果程度	摘果時期	摘果程度
	月．旬	（%）	月．旬	（%）
慣　行	7月下	80	8月下	20
後期重点	8月中	20	9月中	80

「慣行摘果」：生理落果が終わる7月下旬頃から粗摘果を始め、8月下旬までに仕上げ摘果を行う。
「後期重点摘果」：果皮が滑らかになる8月中旬頃から粗摘果を少なめに行い、果皮が光沢を持ち始める9月中旬頃に、一気に適正着果量まで仕上げ摘果を行う。

果皮が滑らか
⇩
粗摘果開始
（8月中旬頃）

果皮が光沢を持ち始める
⇩
仕上げ摘果開始
（9月中旬頃）

写真　後期重点摘果の開始の目安

表2　摘果方法の違いが果実品質に及ぼす影響（品種：宮川早生、2012年）

摘果方法	果実重 (g)	果皮色 (a値)	浮皮程度	果肉歩合 (%)	糖度 (Brix)	酸含量 (g/100ml)
慣　行	111.4	28.3	0.3	79.8	10.3	0.77
後期重点	108.3	29.4	0.3	80.2	12.0	0.68

注）果皮色は測色色差計（日本電色工業製　ZE-2000）による測定値
この値が大きいほど赤みが濃いことを表す
浮皮程度は無（0）、軽（1）、中（2）、甚（3）の4段階評価の平均値
果肉歩合は（果肉重／果実重）×100で算出

慣行摘果に比べ、後期重点摘果した方が
・果皮は赤みが濃くなった。
・糖度が上昇し、酸含量が少なくなり、食味は良くなった。
一方で、果実はやや小さくなった。

【技術の活用】
後期重点摘果は、樹体への着果負担が大きいことから、樹勢を維持し隔年結果を軽減するために、5月下旬から6月下旬にかけて年間窒素施用量の30%程度を夏肥として施用します。

兵庫県
Hyogo Prefecture
兵庫県立農林水産技術総合センター
淡路農業技術センター